



1__施設全景 2__赤外線サーモグラフィで体表測定し体調不良の早期発見につなげます 3__開所を祝いテープカットをする関係者 4__乳用牛育成棟 5__離れた場所からでも体調管理を可能にするセンサー(ファームノートカラー)を預託された牛の首に取り付け管理

生産者の労働力軽減や規模拡大、担い手の育成などの支援を図るため、平成30年10月に設計業務に着手。令和元年から用地造成工事、建設工事、外構工事を順次行い、4年6月に完了。預かった牛の健康状態などを最新のIoT技術を活用し管理するなど、遠隔での見守りや徹底したデータ管理でスムーズな育成管理につなげます。

平笠地区の上坊牧野内に建てられた市繁殖育成センターは9月1日、本格的に稼働を始めました。同施設は、肉用牛の分娩・育成などをする牛舎が7棟、乳用牛の育成などをする牛舎が4棟、管理棟などの付帯施設が5棟、1基の全17施設を保有し、和牛繁殖や酪農家から預託された牛を集団管理する施設で最大940頭の受け入れが可能です。

繁殖育成センターが稼働

和牛繁殖・酪農家を支える

市繁殖育成センターが開所

開所を祝い、安全稼働願う

同日は開所式が同センターで行われ、関係者ら約60人が出席。佐々木孝弘市長は「最新の通信環境を用いたこの施設は生産者の負担軽減や規模拡大など地域の畜産振興につながる。多くの人に利用してほしい」とあいさつ。市から指定管理を受け、管理運営する新岩手農業協同組合の荻谷雅行代表理事組合長は「畜産経営の核となる同センターを関係機関と連携し経営していきたい。経費削減などの課題はあるが、安心して預託できるように努める」と力を込めました。

問い合わせ先

■管理運営に関すること 同

センター(☎78・8105)

■その他 農林課畜産係(☎内線1336)



新岩手八幡平和牛改良組合 組合長
佐々木 昇 さん = 土沢 =

生産者が抱える問題解決につなげてほしい

市や農協など関係機関の協力があり、繁殖育成センターが開所したことに感謝しています。開所をきっかけとし、規模拡大や八幡平牛のPRになることを期待しています。

また、繁殖・育成はもちろんのこと、若い生産者のための研修施設としても活用し、畜産振興に役立ててほしい。